

四明会たより

京都大学農学部四明會 2018年8月発行

ごあいさつ

四明會会長 繩田 栄治
(農学研究科長・農学部長)

四明會会員の皆様には、ますますご健勝のことと存じます。本会の活動に対する日頃からのご支援ご協力の、改めて感謝申し上げます。

四明會は本年も学部314名、大学院修士課程323名、博士後期課程39名の新会員を迎えました。本年は、第3期中期目標・中期計画期間の3年目に当たります。

今年度は、農学研究科にとって、非常に嬉しいニュースからお伝えしたいと思います。ご存知の方も多いと思いますが、本研究科名誉教授の堀江武先生が「アジア稲作に及ぼす地球温暖化の影響に関するシステム農学的研究」により、日本学士院賞を受賞され、去る6月25日に天皇皇后両陛下、文部科学大臣ご出席の授与式において、賞が授与されました。堀江先生には、心からのお祝いを申し上げたいと思います。本当におめでとうございませう。私たち、後輩にとっても、励みになる受賞かと思ひます。

さて、昨年度は、本研究科／学部で3年ごとに実施している自己点検評価の年でした。数ヶ月かけて、この3年間の本研究科／学部の研究・教育をはじめとしたさまざまな活動を点検・評価し、自己評価書を作成しました。年度末には4名の外部評価委員の方に、外部評価をお願いしました。その結果、どの委員からも、殆どの活動については、「期待を上回る水準にある」との評価を頂きました。特に、研究活動、国際交流、施設設備、外部資金の獲得状況については、「期待を大きく上回る水準にある」に近い評価を頂いています。一方、教員組織や人事制度、人権問題への対応、管理運営については、「期待する水準にある」を少し上回る程度の、厳しめの評価でした。このことには、一昨年度導入された学域・学系制度のわかりにくさや、ハラスメントによる教員の懲戒案件があったことの影響が大きかったようです。学域・学系制度については、徐々に制度が浸透し実質化し始めていますが、まだ、完全に馴染んでいない点が指摘されたように思ひます。また、人権問題への対応については、対応する制度そのものはよく整備されているとの評価でしたが、実際に懲戒案件を出している以上、高く評価はできないとの指摘を受けています。今後は、評価結果を基に、高評価を得た活動については、維持向上をめざし、厳しい指摘を受けた活動については、指摘を真摯に受け止め、さまざまな形で制度や活動内容の改善に努めてまいります。

来年度から大学入試センター試験にかわって大学入学共通テストが導入されることもあって、学部入試がいろいろと世間の耳目を集めていますが、本学では、一昨年度末に実施した平成29年度学部入試において、実施から1年近く経過した本年1月に、外部からの指摘により物理の出題ミスが発覚しました。本学部においても、追加合格と繰り上がり転学科、それぞれ3名と4名の該当者があり、追加合格者は全員、本学部に入學、繰り上がり転学科該当者については、それぞれの希望に応じた対応をとりました。該当の方々には、家族の方を含めて、計り知れない迷惑をお掛けしたことに対し、ここで改めてお詫びしたいと思います。申し訳ありませんでした。また、今後も、いろいろな点で該当者の方々の支援を続けてまいります。

学部入試については、AO方式で実施している特色入試が3年目を迎え、来年度入試が4年目になります。初年度は、食料・環境経済学科のみ、次年度からは全学科で実施し、どの学科も、定員3名程度で実施しています。本学の山極総長が会長をしている国立大学協会では、本学の特色入試のような、推薦入試・AO入試による入学者を、学部定員の30パーセント程度まで増やすことを提言しています。本学部では、まだ5パーセント程度ですので、今後、増やすことを検討していきたいと思ひます。



皆様ご存知の通り、近年、国立大学法人をめぐる状況は厳しさを増しています。ここ数年は、運営費交付金は削減されていませんが、法人化した2004年に比べ、今年度の運営費交付金は、100億円減少しています。また、本学では5年前から教職員の定員削減を実施しており、この5年間に、段階的に教職員の数は減り、本研究科の総教員数は、昨年度200名を下回りました。今回の定員削減の最終年の3年後には、190名をわずかに上回る程度となります。一方、削減された運営費交付金を補うため、競争的資金の獲得が奨励されていますし、本研究科／学部も毎年、相当額の競争的資金を獲得して、一部の競争的資金の間接経費は、運営費交付金を補う上で、大きな役割を果たしています。今年度は、この間接経費がここ数年にくらべ、大きく減少しました。本研究科では、ここ数年、競争的資金獲得力のあるシニアの教員の定年退職が続いていることから、その影響が現れてきているのかもしれないし、定員削減の影響がボディーブローのように効いてきているのかもしれない。いずれにせよ、競争的資金の獲得は、本研究科／学部の種々の活動に極めて重要ですので、少しでも教員の負担を減らして、さまざまな競争的資金獲得のための申請を行う態勢を整えるようにする手立てが必要かと思ひます。その一つとして、現在、農学部教育研究基金や間接経費を利用して、若手の特定教員を雇用する案を検討しています。また、このような状況下で、出産・育児休業中にも、研究・教育活動が滞りないように、出産・育児休業中に、上記基金を利用した代替教員・研究員を雇用できる制度を、昨年度末に開始しました。

四明會会員の皆様には、日頃からご協力いただき、本当に感謝しております。今後、より一層支援して頂きますよう、心からお願ひ申し上げます。

同窓会たより

◎農学科 (KND)

KNDならびにゆりの木会のみなさまにおかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。ゆりの木会は4月26日に新入生歓迎会を行い、今年も多くの新入生を迎えました。また6月16日には木津農場にて田植え会ならびに親睦会を行いました。晴天に恵まれ、楽しい時間を過ごしました。

昨年の四明会たよりでのご報告以来、複数の人事異動がありました。昨年9月には、植物生産管理学研究室の齊藤大樹助教が国際農林水産業研究センターに転出され、今年3月には品質設計開発学研究室の裏出令子教授と植物生産管理学研究室の北島宣教授が定年退職されました。同じく3月には蔬菜花卉園芸学の細川宗孝准教授が近畿大学に転出されました。4月には品質設計開発学研究室で丸山伸之先生、植物生産管理学研究室で中崎鉄也先生が教授に昇任されました。また育種学研究室では吉川貴徳助教、品質設計開発学研究室では奥田綾特定助教が着任されました。

最後になりましたが、会員のみなさまのますますのご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(岩上哲史)

◎林学科 (クローネ会)

クローネ会の皆様におかれましては、時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平成29年度の森林科学専攻(旧林学科)における教員の異動は、生物繊維学分野の木村恒久先生、複合材料化学分野の西尾嘉之先生がご退職されました。

平成29年度の京都大学森林科学公開講座は10月14日に「感じる樹木」のテーマで宇治の生存圏研究所で行われました。午前中は森林育成学分野の伊勢武史先生による「人はなぜ、森で感動するんだろう?」、生物機能材料分野の矢野浩之先生による「木の音と楽器の響き」、バイオマス変換分野 西村裕志先生による「溶かして知る・活かす、木の化学」の講演がありました。午後は実習・見学会があり、居住圏環境共生分野の柳川綾先生による「シロアリの感じる木材」、生物機能材料分野の阿部 賢太郎先生による「ナノセルロースに触れよう」、バイオマス形態情報分野の杉山淳司先生による「大吉山の自然と現地のものがたり」が行われました。森林科学公開講座は一般市民を対象に宇治の生存圏研究所と農学部キャンパスで一年ごとに交互に開催されています。

末筆ながら、今後の皆様のみなさまのますますのご健勝とご活躍をこころよりお祈り申し上げます。

(石原正恵)

◎農芸化学科・応用生命科学科(専攻)(六成会)

六成会の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。本会は旧農林化学科の流れをくむ同窓会で、現在では農学部・応用生命科学科(農学研究科・応用生命科学専攻)の11研究室(細胞生化学、生体高分子化学、生物調節化学、化学生態学、植物栄養学、エネルギー変換細胞学、発酵生理及び醸造学、制御発酵学、生体機能化学、生物機能制御化学、応用構造生物学)と生命科学研究科の2研究室(分子細胞育種学、植物分子生物学)、応用生命科学専攻の7研究室(分子生体触媒化学、分子微生物科学、森林圏遺伝子統御学、森林代謝機能化学、木質バイオマス変換化学、農学研究科寄付講座「産業微生物学」、学際融合教育研究センター「生理化学研究ユニット」)で構成されています。

平成30年度は学部1回生として46名(留学生ゼロ)、修士1回生

66名(留学生2名)、博士1回生として9名(留学生1名)を迎えました。教員の異動では、生物機能制御化学分野の安部真人氏(助教)が愛媛大学の准教授として異動されました(平成30年4月)。応用生命科学専攻では、今年度から2020年度までに多数の教授が定年退職し、“激動”の時期を迎えますが、教員全員が一致団結してこの難局を乗り越えていく所存です。

六成会の恒例行事である予餞会は、平成30年2月13日(火)に百周年時計台記念館国際交流ホールにおいて盛大に開催されました。予餞会には桑原保正名誉教授、佐谷英二様(ファーマフーズ技術顧問)にご出席いただきました。また、平成29年度もソフトボール大会が開催され、春季、秋季ともに制御発酵学分野が優勝しました。六成会のもう一つの恒例行事である新入生歓迎会を平成30年4月6日(金)の入学式当日のガイダンス終了後にカンフォア(時計台正面)にて開催しました。六成会の動向や活動の様子はホームページ(<http://www.rikuseikai.kais.kyoto-u.ac.jp/>)でも紹介しておりますので、是非ご覧ください。今後とも六成会へのご支援を何卒宜しくお願い申し上げます。

四明会名簿は隔年発行となっており、本年度は発行年に当たります。会員の住所等の変更については各分野で調査を進めておりますが、お知り合いの方の近況をご存知でしたらご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員の皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

(三芳秀人)

◎農林生物学科(南窓会)

南窓会会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

2015年以降、毎年教員の移動が続きましたが、ようやく落ち着き、今年には教員の移動はありませんでした。旧農林生物学の各研究室とも教育・研究に精力的に邁進しております。

昨年の同窓会たよりでもお知らせしましたが、昨年9月に新たな試みとして、植物遺伝学研究室と栽培植物起原学研究室と植物病理学研究室の植物系3研究室で研究情報交換会を開催しました。主に修士課程の学生達が発表し、質疑応答を行いました。修士二年の学生達にとっては、後期が始まる直前に研究内容を振り返り、修士論文完成に向けてのラストスパートをかけるための丁度よい刺激になったようでした。情報交換とともに互いの交流を深める貴重な機会となりました。今年も既に開催が決まっております。是非定例化したいと各研究室の先生方とお話しております。

会員の皆様には、お近くにお立ち寄りの際にはどうぞお気軽に研究室にお立ち寄り下さい。末筆になりましたが、会員の皆様のご健勝と益々のご活躍を祈念いたしております。

(海道真典)

◎地域環境工学科(洛水会)(旧農業工学科、旧農林工学科)

洛水会会員の皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

洛水会では5月19日に総会を開催いたしまして、今年度の同窓会事業について審議し、その後会員による講演会、懇親会を執り行いました。すでにご存じのとおり、洛水会では運営体制の見直し及び財政状況の立て直しを実施しております。一番大きな見直しは、洛水会名簿を隔年発行にすることです。四明会名簿はすでに隔年発行になっているので、四明会名簿が発行されない年は洛水会名簿を発行し、四明会名簿が発行される際には、洛水会では従来の名簿は発行せずに、教室だより、地域だより、洛水会総会、

会則、卒業生・修了生名簿（平成30年3月卒業・修了）、新入生名簿（平成30年4月入学）という内容の冊子をお届けすることになります。この冊子発行は今年が初めての試みであり、これによって何とか赤字体質から抜け出すことができる予定ですが、それでも財政的には余裕がなくちょっとしたことですぐに赤字になってしまうような状況です。平成29年、30年の2年間で新しい試みの1回目が完了いたします。この試みについて、さらに改善すべき点など会員の皆様から忌憚のないご意見をいただければと存じます。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

（清水 浩）

◎農林経済学科（洛友会）

洛友会の会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。さて、昨年の四明会たよりのご報告以降の教職員の異動に関しましては、原田英美氏が昨年9月16日付で農業食料組織経営学分野の特定助教として着任されました。そして、本年3月31日付で国際農村発展論分野教授の福井清一氏が定年退職されました。その後4月1日より大阪産業大学経済学部に教授として奉職されています。また、本年3月31日付で「農林中央金庫」次世代を担う農企業戦略論」寄附講座特定准教授の坂本清彦氏が龍谷大学社会学部に転籍されました。さらに、同日に「農林水産統計デジタルアーカイブ」寄附講座特定助教の三重選一氏と農業食料組織経営学分野特定助教の原田英美氏が退職されました。職員では、司書室の再雇用職員の辻井喜美代氏が同日に退職されました。次に、本年4月1日付で「農林中央金庫」次世代を担う農企業戦略論」寄附講座特定准教授として横田茂永氏と「農林水産統計デジタルアーカイブ」寄附講座教員・客員准教授として吉田嘉雄氏が着任されました。職員では、司書室の特定業務職員として今井祐子氏が同日に着任されました。

ところで、本年11月3日（土・祝）の京都大学ホームカミングデイにおける洛友会の催しとして、「京大に帰ろう、農・食・環境研究の今を知ろう：生物資源経済学専攻・洛友会ホームカミングデイ」のタイトルで農学部総合館W102にて卒業生の皆様をお待ち申し上げます。さらに、本年度は4年に一回の洛友会総会年に当たり、「第9回洛友会総会」を11月24日（土）の午後から京都大学吉田キャンパス北部構内の北部総合教育研究棟・益川ホールにおいて総会と記念講演を、また同じく旧演習林事務室・ラウンジにおいて懇親会を開催いたします。特に、記念講演に関しましては今年6月の任期満了ご退任まで3期9年間に渡り農林中央金庫の理事長を務められた昭和47年卒の河野良雄氏にお願いしているところです。ぜひ、ご参加お願い申し上げます。なお、詳細は追って洛友会事務局よりお知らせ申し上げます。

最後に、会員の皆様にはますます縦横の連携を密にしつつ洛友会の発展にご協力くださりますようお願い申し上げますと共に、教室への格段のご支援・ご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

（小田滋晃）

◎水産学科（緑洋会）

緑洋会会員の皆様におかれましてはますますご健勝の御事とお喜び申し上げます。

平成30年度緑洋会会長の佐藤健司です（昭和58年卒）。昨年の平成29年6月25日には水産学科創立70年を記念して緑洋会主催の祝賀会を京都大学百周年時計台記念国際交流ホールで開催しました。約160名の同窓生が集まり、大変盛会でした。また今年の6月1日には、緑洋会の関東支部会が東京海洋大学で開催され約23名が集まり楽しいひと時を過ごしました。いずれも年齢はなれた会員同士においても貴重な交流の場となりました。また昨年より課題研究（卒論）・修士論文の発表会の後に緑洋会の主催で資源生物

科学科および応用生物科学専攻の海洋系の学生・教職員で懇親会を開いています。卒業・修了を祝うとともに緑洋会への参加を呼びかけています。今年度はこの会に緑洋会の皆様にも参加していただくことを考えています。その際には皆様是非おいでください。海洋系の教員では平成30年3月で異動された方はいません。

最後になりましたが、緑洋会の会員の皆様のご健勝と会の発展を祈念しつつ、緑洋会の皆様とまたお会い出来ることを楽しみにしています。

（佐藤健司）

◎林産工学科（ユナリグナ）

ユナリグナの会員および会友の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。昨年度夏以降の旧林産工学科関係の人事ですが、複合材料化学（旧木材加工材料学）分野教授の西尾嘉之先生がご退職されました。そして、生物繊維学（旧林産化学）分野教授の木村恒久先生がご退職され、後任には同分野准教授の和田昌久先生が昇任されました。また、私林産加工学（旧林産機械学）分野助教の築瀬佳之が准教授に昇任しました。

さて、同窓会活動に関しましては、学科再編などの影響をうけ、「ユナリグナだより」の発行もここ10年ばかり止まった状態で、「ユナリグナ」としての活動は停滞気味ですが、一方で、「東京ユナリグナ」、「関西ユナリグナ」がそれぞれ2年に1度交互に開催されることとなり、同窓生の交流の場が定着してきました。

また、私自身が管理者となっております「ユナリグナ」のホームページ（URL: <http://h3news1.kais.kyoto-u.ac.jp/users/yanase/HP/index.html>）につきましても、「東京ユナリグナ」と「関西ユナリグナ」の開催情報などをできる限り更新していきたいと考えておりますので、ぜひご覧ください。

最後になりましたが、会員および会友の皆様からの一層のご支援とご協力をお願いしますとともに、皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

（築瀬佳之）

◎食品工学科・食品生物科学科（専攻）（中陽会）

中陽会の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

本年3月27日に学部・専攻修了生の歓送会が楽友会館において開催され、食品生物科学科4回生38名、食品生物科学専攻修士課程29名、同博士後期課程6名の門出を祝いました。次いで4月6日には同じく楽友会館にて中陽会総会を開催するとともに、新入生歓迎会を開催しました。新たに食品生物科学科1回生35名、食品生物科学専攻修士課程34名、同博士後期課程2名を迎えることが出来ました。若い感性と活力を持つ新たな力が加わることは中陽会にとって大きな喜びであります。いずれの会も盛況で学生・院生と教職員の親睦を深める良い機会となりました。

今年度は分野名の名称変更があり、食環境学分野から食品化学分野となりました。教職員の移動としましては、本年3月31日付けで食品生理機能学分野教授の金本龍平先生が定年退職いたしました。また4月1日付けで食品生理機能学分野教授として井上和生先生が栄養化学分野から昇任いたしました。河田照雄先生が栄養化学分野教授を兼任となりました。松村成暢先生が栄養化学分野から食品生理機能学分野に、中川究也先生が農産製造学分野から食品化学分野に、小川剛伸先生が食環境学分野から農産製造学分野にそれぞれ移動しました。さらに6月1日付けで生物機能変換学分野の河井重幸先生が石川県立大学教授に着任されました。新たな教育・研究体制となり、更なる発展に日々努力しているところです。

中陽会を益々発展させていくため、産官学界でご活躍の会員の方々と情報・親睦を深める組織として会員皆様の格別なご支援とご協力、そしてご指導を賜りますよう今後ともよろしく願いいたします。末筆になりましたが、皆様の益々のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(増田誠司)

◎畜産学科 (はくび会)

はくび会、かすみ会、カトレア会の皆様におかれましては、ますますご活躍のこととお喜び申し上げます。応用動物系(旧畜産学科)の分野一同、元気に研究・教育に励んでいます。以下は、本年度はくび会副会長坂井幸貴(畜産資源学分野:修士2回)からの活動報告です。

昨年度の活動としては、平成30年3月23日にはくび会の総会を開きました。総会後には応用動物系5分野(動物遺伝育種学・生殖生物学・動物栄養科学・生体機構学・畜産資源学)卒業生・修了生のための送別会が開催されました。5月15日から6月15日にかけて毎年恒例のソフトボール大会が開催されました。優勝候補の畜産資源は1勝2敗でまさかの苦戦(悔しいです、もっと強くないと)。去年の覇者、生体機構は人数不足で連覇が危ぶまれる中、新4回生の活躍や生殖生物との12時間(おそらく)を超える激闘もあり、見事連覇を飾りました。秋には毎年初戦敗退の四明會ソフトボールで下剋上できるよう、はくび会の学生共々、頑張る所存でございます。11月にはNF前夜祭への出店を予定しています。ぜひともお立ち寄りください。またはくび会では農場を利用し野菜栽培をしています。今年もおいしい野菜をたくさん収穫することができ、これからの夏野菜に関してはみなでバーニャカウダーやカレーを楽しむ予定です。はくび会ホームページ(<http://www.hakubikai.kais.kyoto-u.ac.jp/>)も随時更新していきますのであわせてご覧ください。

応用動物系5分野は農学部総合館北東部の2階から4階にかけて居を構えています。お近くにお越しの説は、お気軽にお立ち寄り下さると幸いです。

(熊谷 元)

◎熱帯農学専攻 (熱田会)

熱田会のみなさまにおかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、梅雨入りである。この時期、学生たちの就職活動も佳境に入る。そして私には四明会たよりの原稿依頼がやってくる。後者は、こうしてお便りを書けばみなさまの手に届くのであるから安心しておればよいが、学生の「就活」(なんでも〇活というのが流行だ)は一筋縄ではいかない。いやいや、いまの就活は空前の売り手市場だというのに、そんなに厳しいはずはないだろうと思われるかもしれない。たしかに、有効求人倍率は1.5倍を超えた。どんな学生でもすぐに就職先が見つかりそうな数字である。ところが学生たちの「就活」は、年を追うごとにますます大変そうに見えるのである。はじめてもう半年にもなるのに就職先が決まらないとなると、当然研究どころではない。なんでこんなことになっているのか。いろいろ意見があると思うが、熱田会最後の学生が卒業したバブル絶頂のころとは方法がまるで違う。インターネットを使って登録するやり方だから、やろうと思えば50社でも100社でも応募できる。処理しきれないほどの情報があふれ、どの会社にもどんな話を「盛った」のか、いちいち覚えてもいられない。どの会社がいいのか、目標さえ定まらない初めての就活は、学生を不安でいっぱいさせる。だから、1社から内定をもらっても、それですぐ就活をやめる気にはなれない。といて、みんな2社から内定をもらえば、求人倍率1.5倍でも4人に1人はあぶれてしまう。高い求人倍率は、楽な就活を意味しない。こんな時代に、大学の役割はどうあるべきだろうか。大学で学んだことが直接仕事に活かせる人は多くないことを私たちは知っている。就職先でのスキルを目指していない。しかも熱帯農学である。ジャングルで百姓か? いや、そういうことではない。大学は学問をやっている、利益に繋がることに直結しにくい。大学とはそういうところである。だって、仕事に役立つかどうかなんて考えていたら研究おもしろくなくなるじゃない?

会員のみなさまのますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

(樋口浩和)

四明會活動報告

京大農学部卒業50周年記念同期生会 (昭和42年卒業)

はじめに

去る平成29年11月2日に四明會の卒業50周年記念同期生会が開催された。場所は京都大学旧演習林事務室・ラウンジ。

四明會事務局から連絡があり学科ごとに世話人が選ばれて事前の会があった。私は遠隔地に居住のために世話人會を欠席させていただいた。そのために「四明会たより」に同期生会について報告する役割を引き受けることになった。世話人は矢野秀雄氏、横尾国治氏、立木隆氏、青山咸康氏、上田利彦氏、瀬尾昭氏と山田修子だった。昭和42年3月卒業生は188名で、出席したのは39名。

式典について

さて、式典は午前10時半に開始された。四明會事務局長の沖田義孝様から開催の辞があり、続いて世話人の農芸化学科の立木隆様が「昔、四明會の卒業50周年記念同期生会の写真を見たことがある。その時はお爺さんばかりだなと思った。ところが本日自分もその同期生会に出席できた。元気に長く持ちこたえてきてよかったと思う。ともかくおめでたいことです。」とご挨拶された。

最後に四明會副会長の佐藤健司様から、「私たちの入学の頃の農学部は七つの学科名であった。農学科、林学科、農芸化学科、農林生物学科、農業工学科、農林経済学科、水産学科だったが、林産工学科、食品工学科、畜産学科が増えた。しかし、平成7年には三つの学科にしぼられた。そして平成13年にはまた改組があり六つの学科となった。それらは資源生物科学科、応用生命科学科、地域環境工学科、食料・環境経済学科、森林科学科、食品生物科学科となった。世の中の学問に対する要求が変わってきている。」と農学部の学科名の移り変わりと変遷についての説明があり、式典は終了した。

その後、希望者で学内を見学した。農学部正門はそのまま残っていた。しかし、研究棟の建物は昔の面影はなかった。続いて時計台のある建物や、旧教養部にも行った。旧教養部は立て看板がなくなりチラシの紙ゴミも散乱していなかった。大学にも品格が要求されている。街の景観を汚すことは禁じるべきだと思っていた。私は海外の5か国の16の大学を訪ねる機会があった。どの大学も凜然とし

て美しかった。英国のOxford大も米国のHarvard大、Stanford大も清潔であった。京大も威風堂々であってほしい。

懇親会について

懇親会はアビカルイン京都で開催。開会前に全員で記念撮影。

司会と進行は林学科の横尾国治様と農林経済学科の上田利彦様で、開会前に物故者35名の方々に黙祷をした。開会の辞は農学科の矢野秀雄様だった。「京大卒業50周年の会に皆様が集まりおめでたい会です。皆様が50年の長い間元気で過ごせてよかった。こういう会は大事なことです。これからも継続して大切にしてほしい。京大農学部を卒業して本当によかった。」と述べられた。乾杯の音頭は農業工学科の木村勝様だった。そして世話人により各学科の紹介があった。

[ご出席者の紹介]

※敬称は略、現役当時の職は平成10年の四明會名簿参考

○農学科

跡田潔、生澤政則、泉浩二、中野淳一、藤澤一男、藤目幸擴、舞鶴正治、矢野秀雄

現役の頃は、ハルナビレッジ(株)、呉羽化学工業(株)、香川県庁、鳥取大学、ADMアニマルヘルス&ニュートリノ、香川大学、大阪市役所、京都大学などで活躍された。

○林学科

茅原正毅、喜志曉雄、久野武、森田正彦、山中勝次、山本宗生、横尾国治

現役の頃は、富山県庁、永代産業(株)、関西学院大学、森林開発公社、ホクト産業(株)、兵庫県、東洋木材(株)などで活躍された。

○農芸化学科

大西康平、木村勝次、日下部健介、杉浦正毅、立木隆、中村征夫、西澤健治、的場輝佳、吉田登、吉富康二

現役の頃は、コカ・コーラ(株)、明治乳業(株)、同志社国際高校、田辺製薬(株)、立命館大学、岐阜大学、明治製薬(株)、奈良女子大学、住友製薬(株)、キリンビールなどで活躍された。

○農業工学科

青山威康、大井才一、木下昌治、木村勝、高橋正典、福野正義
現役の頃は、京都大学、FAOアジア太平洋地域事務所、京都府土木事業所、東北農政局、木津振興局、ホンダ学園などで活躍された。

○農林経済学科

上田利彦、尾澤慎吾、徳岡恒雄、横田滋

現役の頃は、京都銀行、温泉青果農業協同組合、大阪府北河内府税事務所、滋賀県阿志都弥神社などで活躍された。

○水産学科

瀬谷昭、福島亨、福田實

現役の頃は、日本曹達(株)、藤沢薬品工業(株)、(株)資生堂ライフサイエンス研究センターなどで活躍された。

○農林生物学科

山田修子、日本環境倶楽部

おわりに

卒業50周年記念同期生会のおたよりを書くために、この会の司会&進行係の横尾国治さんにアドバイスをいただいた。「卒業以来、初めて会った人が多い。みんな昔話をしていて。それぞれの人が歩んできた人生をお話になっていた。林学科の場合は一緒に行動することが多かった。長野県南小谷のわらべ平の民宿や京都の芦生演習林、そして北海道の標茶にも行った。実習は樹木の種類と生態を説明してもらいながらの山登りだった。大学院生に教えてもらいながらの林学の学習は1か月、楽しかった。」と話してもらった。世の中の学問に対する要求が変わってきている。持続可能なつまりサステナブルな人間社会を構築するには農学部の役割は大きいと感じた。

最近の卒業50周年記念同期生会はホームカミングデイの前日に開催されている。そのために時計台記念館での講演会や京大オーケストラの演奏も楽しんだ。名勝清風荘庭園も見学できた。京都の人が西園寺さんの庭と呼んでいる小川治兵衛の名園を鑑賞できた。

四明會事務局の沖田さん、三田さんありがとうございました。楽しい時間を過ごすことができました。

(農林生物学科 山田修子)



卒業後70年以上の方の声

毎年8月に「四明会たより」とともに名簿調査はがきをお届けし、住所等に変更がある場合のみ返送していただいています。が、ご高齢になると住所等が変わることも少なくなり、何十年も連絡をいただいている方がいらっしゃいます。そこで、昨年12月に卒業後70年以上の方を対象に調査を行い、近況状況をお知らせいただきましたので、ご紹介します。お名前は伏せさせていただきます。

農19

高齢に達し、いつ冥途の寺入りになるかわからない状況です。しかし、毎日一人暮らし(娘2人は近所に住居)で医者通いに欠かせません。「植物学名辞典 上下」をお送りします。

(「植物学名辞典 上下」は農学研究科図書室に配置しました。事務局)

農22

特に変化なし。老年も末期なり。農学の堅実・多彩・発展を祈る!

(本ハガキ投函直前12月19日、93歳9ヶ月不帰の人となりました。生前のご厚誼感謝申し上げます。家族一同拝)

農23

生年月日は大正13年8月22日(93才4ヶ月)、目下のところ元気でやっています。

林22

子供たちからは、老人ホームに入るよう強くすすめられています。家内が認知症のためこちらが病気になったとき、生活出来なくなるからです。

林23

2018年1月で満91才、夫婦も健在。私の方足の力、視力共に弱って来ましたが1人で出掛ける事が出来ます。

化18

拝啓 長々の御無沙汰失礼しています。大病もしましたが、無事何とか過ごしています。先月白寿を迎えました。妻、長女、長男を亡くし、一人きりになったので末娘と同居しています(食事の関係で)。足、腰も弱まり、あちこちの病院に行くだけで、外出もなし、友人とのつきあいもありません。耳も遠くなりテレビもあまり見ないので退屈しのぎに一等賞金何億を目標にロト6、ロト7に挑戦している毎日です。

敬具

化20

大学卒業してから70年を超えた今日では同級生の数も少なくなり寂しい限りです。私は58才で大阪府立放射線中央研究所を、70才で近畿大学を退職後、絵を描くことに興味をおぼえて25年余り、主として海、山、野の風景を油彩、水彩で仕上げ年数回回覧会に出品しており、足腰は弱りましたが、割合元気で消日いたしております。

化22

約50年とその殆どを過ぎた熊本県八代市を15年前離れ、現在は佐世保市の老人施設(ケアハウス)に入居、元気しております。盆・正月には福岡、長崎市の子供、及び孫たち(夫婦大阪市に勤務)もここに集まってくれます。

化23

同期会が8名位に減りましたが、今も続けています。

化23

米寿・・・膝

卒寿・・・腰

九十歳代はリハビリ人生

化23

本年9月家内が亡くなり、出生地の音戸町へ越して参りました。まだ、足腰は大丈夫ですので、単身で暮らしています。何時までもつか分かりませんが。

生19

健在97才

経20

2018年1月21日で満95才になります。認知症が進み、歩行も出来なくなりましたが、長女夫婦と同居しております。歯が丈夫で、治療すべき病も無く、食欲旺盛。デイサービスやショートステイだけが外の世界との接点となっています。新聞・TVにも興味を示さなくなり、会話も成立しないながら、本人なりに元気に平穏な日々を過ごしております。(長女 記)

経23

老衰が進み、薬を友の生活です。

経23

視覚障害により読み書きは殆ど出来ず、体力も年々衰えていますが、気力と意欲は今なお旺盛で、録音図書の聴読4～6時間、CDやカセットによる音楽1～2時間、2千歩ほどの散歩を日課として老後の日々を楽しんでいます。

昨年妻を亡くし、同居中の長男夫婦に助けられながらも、日常生活の多くは自分でこなしており、生への執着はあまりありませんが、生きている間は元気で、元気な間は楽しみたいと願っているこの頃です。(代筆)

「四明会たより」への寄稿のお願い

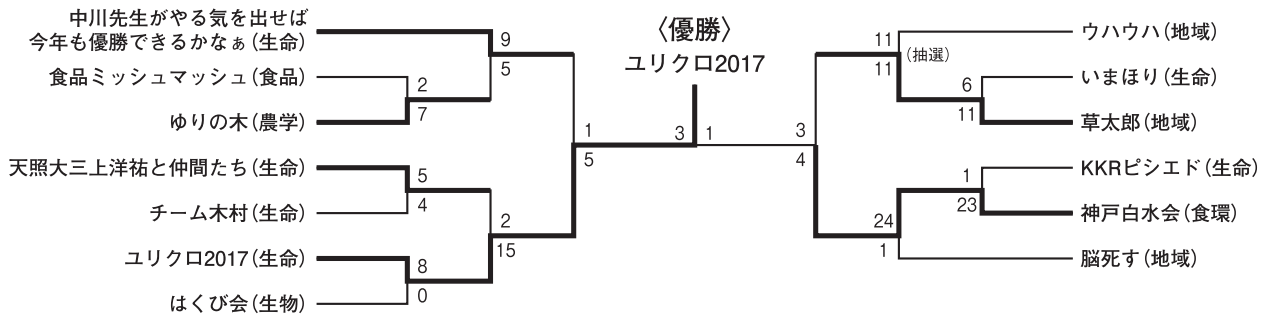
「四明会たより」は年1回の発行です。今後も紙面の充実を図りたいと考えています。各地域や各学年における同窓会の活動を会員の皆様にご紹介したいと考えていますので、ご寄稿をお待ちしています。

また、こんな記事を読みたい等のご希望がありましたら事務局までお知らせください。

(締切随時、400字程度、写真があれば添えてください)

E-mail: shimei@kais.kyoto-u.ac.jp

平成29年度農学部ソフトボール大会



農学→農学専攻

地域→地域環境科学専攻

生命→応用生命科学専攻

食品→食品生物学専攻

生物→応用生物学専攻

食環→食料・環境経済学科

優勝チームキャプテンからのメッセージ

「プレッシャーありがとう」。チームTシャツに刻まれたこの言葉の通り、僕達ユリクロ2017はプレッシャーに潰されることなく、優勝することができました。各研究室から選りすぐりのメンバーが集まったチームでしたが、活躍して当然という暗黙のプレッシャーを一人一人が背負っていました。



そこで、チームが勝つことを第一にし、個人ではなくチームとしてプレッシャーを力に変えることを方針としました。その結果、各選手がのびのびとプレーし、本来のパフォーマンスを出すようになりました。決勝戦で終盤、相手チームに追い上げられた場面でも、チーム一丸となってプレッシャーに打ち勝ち、ピンチを切り抜けられました。優勝という形で今大会を終えた今、キャプテンとしてこのチームを率いた誇りと、チームメートへの感謝の気持ちでいっぱいです。

また今大会、他の研究室や他学科の方々とソフトボールを通して親睦を深められたことも、大変貴重な経験となりました。

最後になりましたが、本大会を運営してくださった四明會事務局の皆様と学生の方々に深く感謝申し上げます。また来年もこの四明會ソフトボール大会で素晴らしい試合が出来る事を心待ちにしております。

(細川 拓哉 応用生命科学専攻 植物栄養学分野 修士一回生 (開催時))

ソフトボール大会後記

平成29年度四明會ソフトボール大会は10/10-10/26の昼休みに農学部グラウンドにて開催されました。今年は悪天候によりグラウンドコンディションが優れない日程も多く長期間に亘りましたが、大きな怪我を負う方も居らず、無事終了できました。

10/26に決勝戦が行われ、「ユリクロ2017」(応用生命科学専攻)が「神戸白水会」(食料・環境経済学科)を破り優勝を飾りました。手に汗握る試合展開で最終回の3アウト目を取るまでどちらが勝ってもおかしくない見応えのある試合でした。両チーム共に日頃の練習の成果を存分に発揮できたかと思われます。第三位には「中川先生がやる気を出せば今年も優勝できるかなあ」(応用生命科学専攻)と「草太郎」(地域環境科学専攻)が入賞致しました。

決勝戦終了後には表彰式が執り行われ、四明會会長縄田教授より優勝チームに四明會杯・賞状・記念品が、準優勝及び第三位チームには賞状・記念品が授与されました。また縄田会長から準決勝以降のレベルの高さと、澁渾とした全力プレーに対する称賛のお言葉を頂きました。

今年も女性の活躍が目立ち、男子から幾つも三振を奪う頼もしい選手もいました。なかなか交流のない他研究室とチームを結成し、専攻の枠組みを超えた試合を通して親睦を深められたなら幸いです。来年も多数の参加を得て更なる四明會の活性化に寄与できる大会になることを望んでおります。

最後に、本大会運営にご協力、ご支援頂きました四明會事務局の皆様には厚く御礼申し上げます。

(学生世話人 林 大祐 応用生命科学専攻 制御発酵学分野 修士二回生 (開催時))

京都大学農学部平成30年度入学生保護者懇談会

今年7回目となります入学生保護者懇談会を4月6日（金）午後、北部総合教育研究棟益川ホールにて開催いたしました。恒例となりました本行事は、農学部入学生がガイダンスを受講している時間と並行して、その保護者の方々を対象に農学部同窓会である四明会の主催で行っています。今年も天候に恵まれ、会場の益川ホール一杯に保護者182名の皆様にご参加いただき、盛況に開催することができました。

まず最初に、農学部長・四明會会長 縄田栄治先生に挨拶をいただき、農学研究科副研究科長 澤山茂樹先生から「農学部カリキュラムの特徴」、学生総合支援センターキャリアサポートルーム長 奥村正悟先生（農学研究科名誉教授）に「卒業後の就職について」、私飯田から「四明會について」、最後に農学研究科副研究科長 村上章先生からビデオ映像も含めて「教員からみた学生生活」について、講演をしていただきました。その後、質疑応答では、初めはあまり質問がありませんでしたが、留学に関する質問を皮切りにして、入学式当日から転学科・転学部に関する質問もあり、大変活発な質疑応答を行うことができました。

保護者の皆様からのアンケートの回答では、講演に関して「満足している」との回答を大半の方々から頂きました。特にカリキュラムのキャップ制については、「良い制度である」、「子供のスカスカの時間割を見て心配したが理由がわかった」などの意見を頂きました。また、アンケート結果からも「是非留学をさせたい」、「留学制度に興味がある」などのご意見を頂きました。次回から具体的な留学事例についても説明をお願いします。

たいと考えています。さらに「私自身四明會の会員」という保護者の方もおられ、「我々の頃にはなかった保護者懇談会という取り組みは大変素晴らしく今後も継続してもらいたい」という大変有難いご意見も頂きました。

2時間という限られた時間でしたが、保護者の皆様と大学の間で最初の有意義な交流と意見交換を行うことができました。参加いただいた保護者、講演者、そして、企画運営いただいたスタッフの皆様にご感謝申し上げますと共に、今後も継続開催をお願いしたいと考えています。

最後に、四明會では今年度も、インターンシップ&業界・企業研究セミナー、スポーツ大会等の行事を開催し、農学部の学生、教員、スタッフだけでなく、同窓生との交流にも支援を心掛けていくつもりです。これからも農学部四明會へのご支援とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

（四明會副会長 飯田訓久）



在学生の就職活動支援

平成28年度より、在学生の就職活動支援のため、農学研究科・農学部との共催で懇談会、セミナー等の各種催しを開催しています。

平成29年度は、①7月1日（土）に「インターンシップ&業界・企業研究学内合同セミナー」（理系学生のための就活スタートアップ講座と企業を招いての業界・企業研究セミナー）、②11月17日（金）「自己分析・エントリーシート対策講座」（エントリーシートの基本的な考え方や作成方法を学ぶためのセミナー）、③3月3日（土）に「キャリア・就職懇談会」を開催しました。

③の「キャリア・就職懇談会」では農学研究科・農学部の卒業生OB・OG（つまり四明會会員）を招いて、業界・企業の特徴、働き方やキャリアについて在学生に語り掛けていただきました。来ていただいたのは農学専攻、森林科学専攻、応用生命科学専攻、応用生物科学専攻の卒業生4名で、学部3

回生、修士1回生を中心に80名の学生が参加しました。

今後もこのような催しを続けてまいりますので、会員の皆様にもご協力をお願いいたします。

（事務局）



平成29年度収支決算及び30年度予算

収入の部

(円)

科 目	平成29年度収支決算		平成30年度収支予算額
	予 算 額	決 算 額	
会 費	5,000,000	5,311,500	5,000,000
名簿売払代	90,000	93,000	1,800,000
広 告 料	0	0	1,500,000
V I S A 募 集 手 数 料	3,000	1,080	3,000
V I S A 提 携 手 数 料	300,000	272,384	300,000
預 金 利 息	30,000	26,177	2,000
寄 付 金 及 び 雑 収 入	5,000	31,500	5,000
小 計	5,428,000	5,735,641	8,610,000
前 年 度 繰 越 金	11,288,548	11,288,548	11,177,423
合 計	16,716,548	17,024,189	19,787,423

支出の部

(円)

科 目	平成29年度収支決算		平成30年度収支予算額
	予 算 額	決 算 額	
名簿印刷・製本費	0	0	3,000,000
名簿発送費	100,000	54,972	150,000
会報等印刷・発送費	2,150,000	1,843,377	2,150,000
球技大会費	140,000	113,952	140,000
会 議 費	100,000	99,142	200,000
謝 金	50,000	34,000	50,000
通 信 費	100,000	69,220	100,000
消 耗 品 費	100,000	136,078	100,000
光熱水量及び借料	220,000	231,681	220,000
V I S A 等 手 数 料 等	200,000	170,630	200,000
備 品 費	200,000	0	200,000
人 件 費	3,100,000	3,073,714	3,100,000
雑 費	50,000	20,000	50,000
小 計	6,510,000	5,846,766	9,660,000
次 年 度 繰 越	10,206,548	11,177,423	10,127,423
合 計	16,716,548	17,024,189	19,787,423

*29年度予算額・決算額と30年度予算額と比較して大きく異なるのは30年度は名簿を発行する年に当たるため。

「京都大学農学部四明會 VISAカード」について

現在約400名の方がご利用されています。このカードのご加入・ご利用による手数料は四明會の貴重な収入源ともなっていますので、この機会に是非お申し込みください。カードの提示による特典サービスもあります。事務局にご一報くだされば資料等をお送りいたします。

農学部・農学研究科学生概要

1. 学生等数 (平成30年5月1日現在)

(1) 学部

学部学生				合計
1年次	2年次	3年次	4年次	
314	310	319	372	1,315

(2) 大学院

修士課程			博士後期課程				合計
1年次	2年次	計	1年次	2年次	3年次	計	
323	363	686	53	65	117	235	921

(3) 科目等履修生等

科目等履修生	特別聴講学生	科目等履修生(院)	特別聴講学生(院)	特別研究学生(院)	研究生(院)	研修員
6	8	2	2	5	16	8

2. 入学状況 (平成30年度)

(1) 学部

区分	入学定員	志願者数			入学者数		
		男	女	計	男	女	計
一般入試	—	472	284	756	192	107	299
特色入試	—	21	41	62	2	8	10
計	300	493	325	818	194	115	309

(2) 大学院

区分	入学定員	志願者数			入学者数		
		男	女	計	男	女	計
修士課程	303	273	140	413	194	111	305
博士後期課程	90	34	10	44	31	8	39

3. 入学試験合格者最高点・最低点(総点) (平成30年度・一般入試)

満点	最高点	最低点	平均点
1,050	858.11	668.05	716.37

4. 学部卒業者・大学院修了者・博士学位授与者数

(1) 学部卒業者数

区分	平成29年度	累計
旧制(昭和23~昭和29.3)	—	3,392
新制(昭和28.3以降)	311	20,265
合計	311	23,657

(2) 大学院修了者数

修士課程	
平成29年度	累計
318	10,313

(3) 博士学位授与者数

区分		平成29年度	累計
旧制		—	641
新制	博士課程修了者	60	2,296
	論文提出者	12	2,862
合計		72	5,799

5. 学部卒業者・大学院修了者等の産業別就職状況

(1) 学部 (平成30年3月卒業者)

産 業		区 分	学 部	
			男	女
製造業	農・林・漁業			
	鉱業・建設業		2	
	食料品・飲料・たばこ		2	1
	繊維工業			
	印刷等			
	化学工業・石油		1	
	鉄鋼業・金属			1
	機械・電気		6	1
その他				
サービス業	電力・ガス			1
	情報通信業・運輸業		7	6
	卸売・小売業		4	3
	金融・保険業		8	4
	学術研究、専門・技術		1	1
	宿泊・飲食業		2	
	その他		3	1
教育	学校教育			
	学習支援業			
公務	国家公務		1	1
	地方公務		3	2
上記以外				
男子計			40	
女子計				22
総合計			62	

(2) 大学院 (平成29年度修了者・研究指導認定退学者)

産 業		区 分	修士課程		博士後期課程	
			男	女	男	女
製造業	農・林・漁業					
	鉱業・建設業		5	4		
	食料品・飲料・たばこ		22	18		
	繊維工業		2	2		
	印刷等					
	化学工業・石油		29	13	2	
	鉄鋼業・金属					
	機械・電気		27	12	1	
その他		4	2			
サービス業	電力・ガス		2			
	情報通信業・運輸業		21	5	1	
	卸売・小売業		13	6		
	金融・保険業		10	3		
	学術研究、専門・技術		18	6	5	1
	宿泊・飲食業			1	1	
	その他		7	5	5	
教育	学校教育		2	3	6	3
	学習支援業		2	1		
公務	国家公務		6	1		
	地方公務		7	3	1	
上記以外			39	17	19	20
男子計			216	102	41	24
女子計						
総合計			318		65	

6. 国別外国人留学生数

平成30年5月1日現在

国名	国費			私費			合計				
	学部学生	修士課程	博士後期課程	修士課程	博士後期課程	研究生等	学部学生	修士課程	博士後期課程	研究生等	合計
アフガニスタン			1	1				1	1	0	2
インド			3					0	3	0	3
インドネシア	1		1	10	9	1	1	11	10	1	23
オーストラリア					1		0	0	1	0	1
カメルーン				1			0	1	0	0	1
カンボジア	1				1		0	1	1	0	2
ケニア	3		2	1			0	4	2	0	6
ザンビア				1			0	1	0	0	1
スペイン			1				0	0	1	0	1
スリランカ			1				0	0	1	0	1
タイ				2	1		0	2	1	0	3
タンザニア			1				0	0	1	0	1
パラグアイ					1		0	0	1	0	1
バンダラデイシユ	4		8		1		1	4	9	0	13
フィリピン			1				0	0	1	0	1
フランス							2	0	0	2	2
ベトナム				1	4		0	1	4	0	5
マレーシア				1	2		0	1	2	0	3
ミャンマー	2		4	2	1		0	4	5	0	9
モザンビーク				1			0	1	0	0	1
韓国	4			4	1	1	7	5	1	2	19
台湾				12	9		0	12	9	0	21
中国			4	29	22	10	8	29	26	11	74
米国	1			1			0	2	0	0	2
香港				2			0	2	0	0	2
総計	4	13	27	69	53	14	20	82	80	16	198

教 員 人 事

平成29年7月1日	辻村 英之	昇任	生物資源経済学専攻 農企業経営情報学講座 農業食料組織経営学分野	教授
平成29年9月16日	原田 英美	採用	生物資源経済学専攻 農企業経営情報学講座 農業食料組織経営学分野	特定助教
平成29年9月30日	齊藤 大樹	辞職	附属農場	助教
平成30年3月1日	松井 徹	併任	附属牧場長	
平成30年3月31日	細川 宗孝	辞職	農学専攻 園芸科学講座 蔬菜花卉園芸学分野	准教授
	安部 真人	辞職	応用生命科学専攻 生物機能化学講座 生物機能制御化学分野	助教
	松田 洋和	辞職	応用生物科学専攻 動物遺伝増殖学講座 動物遺伝育種学分野	助教
	坂本 清彦	任期満了	「農林中央金庫」次世代を担う農企業戦略論講座（寄附）	特定准教授
	山口 幸三	任期満了	農林水産統計デジタルアーカイブ講座（寄附）	特定准教授
	高田 守	任期満了	応用生物科学専攻 植物保護科学講座 昆虫生態学分野	特定助教
	原田 英美	任期満了	生物資源経済学専攻 農企業経営情報学講座 農業食料組織経営学分野	特定助教
	三重 遷一	任期満了	農林水産統計デジタルアーカイブ講座（寄附）	特定助教
	水谷 由記子	任期満了	「不二製油」大豆ルネサンス講座（共同研究）	特定助教
	今井 裕	定年退職	応用生物科学専攻 動物遺伝増殖学講座 生殖生物学分野	教授
	福井 清一	定年退職	生物資源経済学専攻 国際農林経済学講座 国際農村発展論分野	教授
	裏出 令子	定年退職	農学専攻 品質科学講座 品質設計開発学分野	教授
	木村 恒久	定年退職	森林科学専攻 生物材料工学講座 生物繊維学分野	教授
	北島 宣	定年退職	附属農場	教授
	西尾 嘉之	定年退職	森林科学専攻 生物材料機能学講座 複合材料化学分野	教授
	金本 龍平	定年退職	食品生物科学専攻 食品健康科学講座 食品生理機能学分野	教授
平成30年4月1日	吉川 貴徳	採用	農学専攻 作物科学講座 育種学分野	助教
	勝山 正則	採用	地域環境科学専攻 生物環境科学講座 森林水文学分野	特定准教授
	原 良太郎	採用	産業微生物学講座（寄附）	特定准教授
	横田 茂永	採用	「農林中央金庫」次世代を担う農企業戦略論講座（寄附）	特定准教授
	奥田 綾	採用	農学専攻 品質科学講座 品質設計開発学分野	特定助教
	浅見 淳之	昇任	生物資源経済学専攻 国際農林経済学講座 国際農村発展論分野	教授
	中崎 鉄也	昇任	附属農場	教授
	井上 和生	昇任	食品生物科学専攻 食品健康科学講座 食品生理機能学分野	教授
	和田 昌久	昇任	森林科学専攻 生物材料工学講座 生物繊維学分野	教授
	南 直治郎	昇任	応用生物科学専攻 動物遺伝増殖学講座 生殖生物学分野	教授
	丸山 伸之	昇任	農学専攻 品質科学講座 品質設計開発学分野	教授
	奥本 裕	併任	国際高等教育院	教授
	宮下 正弘	併任	国際高等教育院	准教授
	澤山 茂樹	併任	教育研究評議会評議員	
	白岩 立彦	併任	附属農場長	
平成30年5月1日	安宅 未央子	採用	森林科学専攻 森林生産学講座 森林利用学分野	特定助教
	北野 慎一	昇任	生物資源経済学専攻 国際農林経済学講座 食料・環境政策学分野	准教授
平成30年5月31日	河井 重幸	辞職	食品生物科学専攻 食品生産工学講座 生物機能変換学分野	助教
平成30年6月1日	築瀬 佳之	昇任	森林科学専攻 生物材料工学講座 林産学加工学分野	准教授

京都大学農学部教育研究基金及び 京都大学農学研究科附属農場基金の 醸金・事業状況の報告

会員の皆様には平成29年度も両基金に多くの醸金を頂き、誠にありがとうございました。農学部教育研究基金は59件の寄付を頂いています。収支は下記の通りです。昨年度にお伝えした通り、大学院生の渡航援助を強化しており、在学中に少なくとも一度は海外での研究発表を経験してもらおうと旅費を支援しています。その結果、20名を国際研究集会等に派遣しています。また、その他、4名の留学支援を実施しました。「芦生（向山）維持管理費」は平成24年度に未来農業国際研究財団から寄付頂いた山林の維持のために使用しています。「国際交流室行事用」は、本研究科国際交流室が実施しています、留学生や外国人研究者のための様々な行事の実施補助に使用しています。

附属農場基金につきましても33件の寄付を頂きました。心からお礼を申し上げます。一昨年度、移転は終了しましたが、今後、果樹が育ち自己収入が十分に得られるようになるまでには、暫く時間を要するようですし、施設・設備の充実もこれから時間をかけて進めていく必要があります。今後とも、皆様の支援をお願い致します。

本学ならびに本研究科・本学部がおかれている財政状況は厳しさを増すばかりです。そのような状況下で、皆様からご支援いただけるのは誠に心強く、大変ありがたく存じております。引き続き、強力なお力添えを賜りますよう、宜しくお願ひ申し上げます。

平成30年8月

京都大学農学部長・農学研究科長 縄田栄治

農学部教育研究基金

収支（平成17～29年度）

年 度	寄 附 金		研究集会等派遣助成等		翌年度繰越額	備 考
	件数	金額（円）	件数	金額（円）		
平成17	370	10,339,000	—	—	10,339,000	平成17年12月1日、内規・運用規則裁定
平成18	207	4,833,360	2	400,000	14,772,360	
平成19	146	8,850,380	6	1,199,000	22,423,740	
平成20	115	4,493,300	5	920,000	25,997,040	
平成21	162	3,672,060	7	1,128,446	28,540,654	
平成22	96	2,445,100	6	907,000	30,078,754	
平成23	128	7,675,400	18	1,475,200	36,278,954	
平成24	104	62,991,807	14	1,200,000	98,070,761	
平成25	87	3,131,180	8	800,000	100,401,941	
平成26	58	2,007,114	14	1,250,000	101,159,055	
平成27	67	1,049,580	39	2,111,951	100,096,684	
平成28	67	3,559,360	66	3,657,650	99,998,394	
平成29	59	1,043,700	66	2,267,951	98,774,143	
（累計）	1,666	116,091,341	251	17,317,198	98,774,143	

平成29年度執行内訳

事 項		金額（円）	備 考
支出	国際研究集会等参加助成金	1,600,000	詳細は下欄参照
	短期交流支援助成金	150,000	詳細は下欄参照
	留学支援助成金	48,190	詳細は下欄参照
	芦生研究林（向山）維持管理費	100,000	
	国際交流室行事用経費	369,761	
計		2,267,951	

国際研究集会等参加助成金内訳

氏名	学年	研究集会名	金額(円)	派遣先
NJANE STEPHEN NJEHIA	博士1回生	World Aquaculture 2017 Sustainable Aquaculture New Frontiers For Economic Growth Spotlight on Africa	100,000	南アフリカ共和国
張 平星	博士3回生	World Green Infrastructure Congress : Designing with Nature	100,000	ドイツ
庭山 翔太	修士1回生	VIII International Synposium on Mineral Nutrition of Fruit Crops	100,000	イタリア
本多 慎之介	修士1回生	50th Annual Meeting of the Society for the Study of Reproduction	100,000	アメリカ合衆国
正田 佑	博士3回生	INTECOL 2017 Beijing Congress	50,000	中国
NGUYEN XUAN DONG	博士1回生	Asian Mycological Congress 2017	50,000	ベトナム
ZHENG JIAWEN	博士2回生	21st International Congress of Nutrition (第21回国際栄養学会議)	100,000	アルゼンチン
ZHOU YUAN (周 縁)	修士2回生	7th Asian Australasian Conference on Precision Agriculture (7ACPA)	50,000	ニュージーランド
馬場 美聡	博士1回生	The 37th Midwest Enzyme Chemistry Conference (MECC)	100,000	アメリカ合衆国
高松 亮佑	修士2回生	The 15th International Conference of the International Association for Computer Methods and Advances in Geomechanics	50,000	中国
SHARMA VIKAS	博士2回生	The 15th International Conference of the International Association for Computer Methods and Advances in Geomechanics	50,000	中国
岡田 紘明	修士2回生	The 15th International Conference of the International Association for Computer Methods and Advances in Geomechanics	50,000	中国
MAHINDA ATHUMAN JUMA	博士2回生	Symposium on Climate Change and Drought Resilience in Africa	100,000	ケニア
LYU HAN	修士2回生	The 13th International Conference of East and Southeast Asia Federation of Soil Science Societies 2017	50,000	タイ
前田 春香	修士1回生	International Plant & Animal Genome XXVI (第26回動植物ゲノム会議)	100,000	アメリカ合衆国
吉岡 資洋	博士2回生	International Plant & Animal Genome XXVI (第26回動植物ゲノム会議)	100,000	アメリカ合衆国
倉坂 麻央	修士1回生	Symposium for the next generation of stem cell researchers (SYSstem)	100,000	オーストリア
趙 杜善	博士3回生	Symposium for the next generation of stem cell researchers (SYSstem)	100,000	オーストリア
KHALIDUZZAMAN	博士2回生	11th Asia Pacific Poultry Conference	50,000	タイ
RAHMAN MD. HABIBUR	博士1回生	Student Conference on Conservation Science (SCCS)	100,000	イギリス
		計	1,600,000	

短期交流支援助成金内訳

氏名	学年	プログラム名	金額(円)	派遣先
多田 光史	学部3回生	実習型・夏季短期派遣プログラム (カリフォルニア大学デービス校)	50,000	アメリカ合衆国
岸 晃太郎	学部3回生	実習型・夏季短期派遣プログラム (カリフォルニア大学デービス校)	50,000	アメリカ合衆国
LIM HYERI	学部3回生	実習型・夏季短期派遣プログラム (カリフォルニア大学デービス校)	50,000	アメリカ合衆国
		計	150,000	

留学助成支援金内訳

氏名	学年	プログラム名	金額(円)	派遣先
濱 勇希	博士1回生	部局間交流協定校 (昆明理工大学大学院) への派遣	48,190	中国
		計	48,190	

平成29年度入金者一覧

(五十音順)

相川 哲	岡松 直勝	佐々木 義之	西村 一三	益田 昌史
赤松 美紀	片山 弘一	佐藤 淳	野口 修	真宮 靖治
池田 昇司	加藤 康暉	清山 高正	野村 彦治	水落 章
石井 千津	川崎 慶子	高田 長武	原 完	宮川 恒
石田 三雄	久馬 一剛	高橋 強	廣川 治	村井 耕二
石原 弘	桑島 士郎	徳弘 尚子	廣瀬 忠爾	森下 泰
板野 徹	桑原 保正	栃原 邦匡	福永 拓也	森本 茂俊
伊藤 あすか	河内 英一	中尾 義雄	伏見 清昭	矢野 秀雄
伊藤 七郎	小杉 直輝	中西 英光	藤原 良一	山口 務
井上 樹芳	小谷 明司	永野 由祐	古瀬 浩介	鷺尾 春一
井村 周一	小西 広顕	縄田 栄治	古田 保	和田 卓也
入江 隆彦	齋藤 健	西尾 嘉之	堀江 武	

以上59名

農学研究科附属農場基金

収支（平成25～29年度）

年 度	寄 附 金		教育研究活動助成等		翌年度繰越額	備 考
	件数	金額（円）	件数	金額（円）		
平成25	97	3,773,000	0	0	3,773,000	
平成26	66	1,520,960	0	0	5,293,960	
平成27	62	1,176,000	2	2,069,280	4,400,680	
平成28	40	813,400	0	0	5,214,080	
平成29	33	592,900	0	0	5,806,980	
（累計）	298	7,876,260	2	2,069,280	5,806,980	

平成29年度執行内訳

事 項	金額(円)	備考
支出	—	0
	計	0

平成29年度入金者一覧

（五十音順）

青野 俊一	大山 嘉穂	小谷 明司	中西 英光	福村 武一
赤松 美紀	亀田 宗三	榊 利之	永野 由祐	堀江 武
安土 奈保子	川崎 慶子	清山 高正	縄田 栄治	柳本 紀男
石井 千津	久馬 一剛	高木 信雄	西村 一三	矢野 秀雄
板野 徹	桑島 士郎	高橋 強	野口 修	和田 卓也
伊藤 あすか	桑原 保正	徳弘 尚子	廣瀬 忠爾	
伊藤 七郎	小杉 直輝	栃原 邦匡	福永 拓也	

以上33名

農学部創立100周年記念事業への資料等提供について

農学部創立100周年記念事業(2023年)にむけて、昔の農学部の校舎や行事の写真等関連の資料を収集しています。お持ちの方で、提供していただける方は、ご一報いただければ幸甚です。

絵ハガキの贈呈について

会費納入者ご希望の方に、名誉教授上野民夫氏がお描きになった水彩画(5枚1組)の絵ハガキを贈呈します。アートポストカラーでの仕上がりで農学部関連施設をスケッチしたものです。

申し込み方法は、封書で返信用封筒(切手82円貼付)を同封のうえ四明會事務局まで申し込んでください。

なお、四明會ホームページでカラー版が閲覧できます。



旧演習林事務室（農学部四明會事務局）（有形文化財）

第13回 京都大学 ホームカミングデイ

テーマ “^{つぐ}継”

平成30年11月3日(土) 京都大学百周年時計台記念館周辺

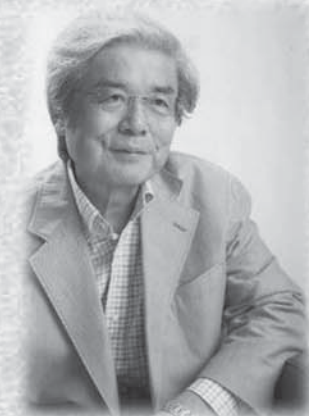
現代は「人生100年時代」と言われています。そのなかで、先人から受け継いだものを次世代に引き継ぐということは、今の時代を生き証であり、使命の一つではないでしょうか。

各イベントを通して、皆さまに「継(つぐ)」とは?いつ?どのように?など、あらためて考えていただくきっかけをご提供できればと思います。

ー メインプログラム ー

10:00～ 講演会 ※先着順

講師 : 東京大学名誉教授 養老 孟司
パネリスト: 総長 山極 壽一
教育学研究科教授 桑原 知子



※写真はイメージです。

12:00～ 京料理を味わう

事前
申込み

「和久傳」による特別弁当 (料金: 3,800円)
京都大学落語研究会による爆笑寄席

ー 当日開催イベント ー

◆音楽祭 13:15～

京都大学交響楽団・京都大学合唱団OB・OG
など多数の団体が出演予定

完成百周年を記念して「琵琶湖周航の歌」を
出演者・会場全体で大合唱

◆SPEC採択者発表会 13:30～

SPEC (京大生チャレンジコンテスト) 2018の
採択学生によるプレゼンテーション

◆施設見学

9:30～ 総合博物館
10:00～ 附属図書館

◆クスノキ屋台村 11:00～17:00

時計台前庭のクスノキを中心に飲食のブースや
ステージを展開

◆清風荘見学

事前
申込み

①13:00～14:00 ②14:00～15:00 ③15:00～16:00
(各回40名)

◆その他

思い出フォト投稿
卒業生からのメッセージ

などを企画しております。

※京料理を味わう・清風荘見学は、事前申込み・抽選制です。

※上記のイベント情報は変更になる場合がございます。

申し込み方法等の詳細は、8月下旬に京都大学同窓会HP・Facebookに掲載予定です。



京都大学同窓会事務局

電話: 075-753-2029・5563

FAX: 075-753-2286

E-mail: alumni@www.adm.kyoto-u.ac.jp

京都大学同窓会HP

<http://hp.alumni.kyoto-u.ac.jp/>



京都大学同窓会Facebook

[http://www.facebook.com/
KyodaiAlumni](http://www.facebook.com/KyodaiAlumni)



京都大学農学部四明會会則 (平成30年4月18日 一部改正)

第1章 総 則

- 第1条 本会は、京都大学農学部四明會と称する。
- 第2条 本会は、会員相互の連絡を密にし、親睦をはかることを目的とする。
- 第3条 本会は、その目的を達成するため名簿の発行、その他必要な事業を行う。

第2章 会 員

- 第4条 京都大学農学部（以下「農学部」という。）の卒業生及び京都大学大学院農学研究科（以下「農学研究科」という。）修士課程修了者、または博士後期課程修了者（研究指導認定退学者を含む）を本会の正会員とする。
- 2 農学部・農学研究科の現教員及び旧教官、現職員、学生、並びに農学部・農学研究科に特別な関係を持つもので役員会が承認したものを特別会員とする。
ただし正会員であるものは除く。
- 3 特別会員はこの会則に関して正会員について特に定める事項を除き正会員と同等とする。

第3章 役 員

- 第5条 本会に次の役員をおく。
会長1名 副会長1名 監事2名
常任委員6名以上 委員10名以上
- 第6条 常任委員は農学研究科の各専攻から推薦された教員について役員会で決定する。
- 2 委員は各同窓会単位ごとに正会員または特別会員の内から推薦を受け、役員会において決定する。
- 3 会長が役員を必要とするときは、候補者を推薦し、役員会で決定する。
- 第7条 会長は農学部長をもってあてる。
- 2 副会長は常任委員の内から、監事は委員の内からそれぞれ役員会において互選する。
- 第8条 常任委員及び委員の任期は1年とし4月に交代するものとする。
ただし留任はさまたげない。
- 第9条 会長は本会を代表し会務を統括する。
副会長は会長を補佐し、会長に事故のあるときはこれに代わる。
常任委員は会務を分掌し、監事は財務を監査する。
- 第10条 本会に顧問をおくことができる。
なお、会長は必要に応じて顧問を役員会に出席させることができる。

第4章 役 員 会

- 第11条 役員は役員会を組織し本会の運営に関する重要事項を審議決定する。

- 第12条 次の事項は役員会の議決を要する。
- (1) 事業計画
 - (2) 予算及び決算に関する事項
 - (3) 基本財産に関する事項
 - (4) 会費に関する事項
 - (5) 寄付金その他収入に関する事項
 - (6) 会則の変更

- 第13条 定期役員会は毎年4月に開くものとする。
ただし必要に応じ臨時役員会を開くことができる。
- 第14条 役員はその1/3以上の同意により臨時役員会を請求することができる。
- 第15条 役員会は役員の過半数の出席により成立し議事は出席役員の過半数により決定する。
ただし可否同数の場合は議長が決定する。
- 2 会則の変更は出席役員の2/3以上の賛成により決定する。
- 第16条 役員会は会長が招集し、議長になる。
- 2 役員会の事務は事務局長が処理する。
- 第17条 会長は必要に応じ常任委員会を開く。常任委員会は会長、副会長、常任委員及び事務局長により組織し本会の業務の執行に関し必要な事項を審議決定する。

第5章 会 計

- 第18条 本会の経費は会費及び寄附金その他の収入をあてる。
- 第19条 会費は会員から徴収し、金額はそれぞれ次のとおりとする。
- (1) 年会費 正会員、特別会員とも1,500円
 - (2) 終身会費 60歳以上で希望する者20,000円
 - (3) 学生会費（入会金及び在学中の会費）
学部生10,000円 大学院生5,000円
- 第20条 本会の会計年度は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第6章 事 務 局

- 第21条 本会の事務局は農学部内におく。
- 第22条 事務局には事務局長1名、事務職員若干名をおく。
- 第23条 事務局長及び事務職員は会長の指揮を受け事務を処理する。

- 附 則 この会則は昭和46年4月1日より施行する。
- 附 則 この会則は平成11年4月1日より施行する。
- 附 則 この会則は平成18年5月1日より施行する。
- 附 則 この会則は平成20年5月1日より施行する。
- 附 則 この会則は平成30年4月18日より施行する。

京都大学農学部四明會 平成30年度役員名簿

会 長 縄田 栄治
副 会 長 飯田 訓久
監 事 佐藤 健司
 々 築瀬 佳之

常任委員

農 学 専 攻 富永 達
森 林 科 学 専 攻 柴田 昌三
応用生命科学専攻 植田 和光
応用生物科学専攻 大門 高明
地域環境科学専攻 飯田 訓久
生物資源経済学専攻 小田 滋晃（総務）
食品生物科学専攻 井上 和生

委 員

農 学 科 岩上 哲史
林 学 科 石原 正恵
農 芸 化 学 科 三芳 秀人
農 林 生 物 学 科 海道 真典
農 業 工 学 科 清水 浩
農 林 経 済 学 科 鏡島 正信
水 産 学 科 佐藤 健司
林 産 工 学 科 築瀬 佳之
食 品 工 学 科 増田 誠司
畜 産 学 科 熊谷 元
熱 帯 農 学 専 攻 樋口 浩和

顧 問 上原 孝俊

 々 一井 信吾

事 務 局 沖田 義孝

 々 三田 久子

◎事務局より

今回初めて卒業後70年以上の方の声を掲載いたしました、いかがだったでしょうか。卒寿を超えられた先輩方の様子が少しでも伝わったのではないかと考えています。

今後も会員の皆様の近況等を掲載し、紙面の充実を図りたいと考えています。皆様からのご寄稿をお待ちしています。

また、こういう記事が読みたいとか、〇〇について調べてほしいとか、ご希望がありましたらお知らせください。できる限り対応いたします。

今年の名簿発行の年に当たっていますが、約3分の1の会員の方が住所等不明となっています。

住所等不明者のお名前をホームページに掲載しています。消息をご存知の方は事務局までお知らせいただくか、ご本人に事務局へ連絡するようお願いください。

(ホームページ <http://www.shimeikai.kais.kyoto-u.ac.jp/>)

また、今年発行の名簿第62号より掲載方法を次のように変更いたします。

卒業後80年以上(今回は昭和13(1938)年以前の卒業)で音信のない会員については物故者と同様に名前だけの掲載とします。ただし、物故者と同じ※印ではなく★印で区分します。

ホームページには住所等不明者だけでなく、いろいろな活動の告知や報告も掲載しています。随時更新していますので是非ご覧ください。

本来は昨年お知らせすべきでしたが、事務局長が交代しました。昨年3月31日付けで山下恵美子さんが退職し、4月1日より沖田が担当しています。山下さんは平成24年4月より5年間在職し、四明會発展のために大変ご尽力されました。今までの労に感謝いたします。退職後は趣味の卓球にこれまで以上に励まれているとのこと。益々のご健康とご活躍をお祈りします。

会費納入のお願い

平成30年度(30年4月～31年3月)四明會年会費1,500円を同封の払込取扱票で納入下さるようお願いいたします。

60歳以上の方でご希望される場合は終身会費(2万円)の制度もございます。どうぞご利用ください。

みずほ銀行、ゆうちょ銀行の四明會の口座への振り込みも可能です。詳細は事務局までお問合せください。

同窓会・クラス会支援制度の実施について

昨年4月の定期役員会で、積極的な活動を考えることが必要との意見があり、常任委員会で検討の結果、「同窓会・クラス会支援制度」を実施することになりました。制度の概要は下記のとおりですが、詳細は事務局までお問い合わせください。

同窓会活動の活性化を図るために、学科、専攻、分野ごとに開催する同窓会・クラス会で、一定の条件を満たす場合に経費の一部を支援します。

- 【条 件】 ①10名以上の参加者があり、当該年度の年会費または終身会費の納入者が参加していること
②参加者名簿、開催報告、写真を提出すること（開催報告、写真は四明会たより、ホームページに掲載する）
③学科同窓会が主催するものは対象外
- 【支 援】 1回につき1万円とし、年1回を限度とする。
- 【手続き】 ①四明会事務局に上記の書類を添えて申請する。
②四明会事務局において審査の後、指定口座に振り込む。

四明會のメタルについて

昭和11年林学科卒業塚口紀久雄さんのご遺族から、四明會のメタルがあった、当時の資料を見せてもらいたいと連絡があり、事務局に来られました。

メタルは高さ約80mm、幅約65mmで、表面には競技者と陸の文字、裏面には京都帝大四明會と2595の文字があります。2595は皇紀2595年のことで昭和10年（1935）年のことです。

当時の四明會は、運動部などの部活動を中心とし、会誌や名簿の発行を行っていました。



メタル (表)



メタル (裏)

四明会たより（平成30（2018）年8月発行）

京都大学農学部四明會

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

Tel/Fax 075-753-6030

メールアドレス shimei@kais.kyoto-u.ac.jp

ホームページ <http://www.shimeikai.kais.kyoto-u.ac.jp/>